

# 議会だより

## 第490回西ノ島町議会 6月定例会一般質問（要約）



吉田 歳造 議員

### 質問 人口減少対策について

人口減少対策については、多くの自治体が抱えている大きな課題であり、この西ノ島でも最大の課題だと思っている。人口減少に歯止めをかけるためには、Uイターンの数を増やし定着を図る。また、Uイターンの実態を把握し、検証する必要があると考えるため、次の3点について伺う。まず1点目は、Uターン、Iターン希望者が、何を希望され、何に不安をもっておられるか。2点目は、Uターン、Iターンされて来た方々が、半年、1年、5年、10年になって、満足に思っておられることや不満に思っておられることが何か。そして最後に、これらの実態をふまえ、この課題における今後の方向性を町長に伺う。

### 回答 町長

1点目のUイターン希望者の希望や不安の把握については、例年参加している全国の離島が集る祭典「アイランド」でのアンケート調査や「ふるさと島根定住財団」が都市部で開催するUイターンフェア、その他、電話やメールなどがあり、こうした機会を通して移住希望者の声を伺っている。移住を希望される方の、性別、年代、職業、家族構成など、形態は様々であるため、一概に移住希望者の希望や不安を言い表すことは難しいが、一般的には自然環境に恵まれた生活や子育てしやすい環境、充実した移住・定住支援策等を重要視する一方で、求める仕事の内容や待遇面、買い物、医療機関、医療体制などに関して不安視する傾向が見受けられる。こうした声を受け、可能な限り移住者との移住後のミスマッチが生じないように、本町の実情を説明しながら移住者の受入対応をしているところである。2点目のUイターン者への実態調査による満足や不満は何かについては、数年

前に、地域おこし協力隊が中心となって、Iターン者の交流会を行なっている。当時の交流会では、良かったと感じた事としては、「近所の方々との交流が、ものすごく密度が高く、楽しい」と言った意見や「満員電車のストレスがなくて快適になった」とあるいは「家族でゆくりと過ごす時間が増えた」と言った環境面での変化を好意的に捉える傾向がある。一方で、不便・不満に感じている事としては「休日に雨だと、どこにも行く所が無くて困る」また「ゆくりと過ごせるカフェがあれば」と言った娯楽面での不満や「物価が高い」と言った声も多く聞かれている。「買い物などで、直ぐに必要なものが手に入りにくい」などといった離島の不便さを指摘する意見等も多数あった。それ以降、本町にUイターンされた方々に対する実態調査は、これまで実施してきておらず、この反省から、第2期総合戦略では、基本目標の一つに「新しい人の流れをつくる」を重点施策として掲げており、調査内容、方法等を検討のうえ、本町へのUイターン者への実態調査を実施する予定としている。最後に、今後の人口減少対策の方向性については、第2期総合戦略で、お示ししているとおり「人の集う島へ」をスローガンに、総括目標として設定した、2024年10月時点の人口2,630

人、生産年齢人口1,120人をクリアすることが、持続可能な地域社会を維持するために重要であると考えている。近年、合計特殊出生率が高止まりしていることや長年、実現できなかった人口の社会増が、平成29年、30年と2年続けてプラスに転じた事など、人口減少は抑制傾向にあると推測している。この良い流れを継続させるとともに、更なる新たな人の流れをつくっていくため、従来の移住定住策、産業振興等の諸施策に加え、移住促進ツアー事業やUイターン検討者短期就業体験支援事業等、新規事業も積極的に取り入れながら、人口減少対策に危機感をもって全力で取り組んでいく。





憲員 谷一 澤 議

**質問** 別府港及び浦郷漁港における臨港道路の改善に係る取り組みについて

西ノ島町の道路は、国道をはじめ県道や町道など集落間を繋ぐ道路の改修が大きく進んだことに加え、港湾・漁港事業で整備された臨港道路との接続によって、道路事情は飛躍的に向上してきた。しかしながら、別府港臨港道路の集合庁舎付近から黒木御所付近までの区間と浦郷漁港臨港道路の商工会付近から小若の鳥居付近までの区間で、見通しが悪く改善が必要な箇所がある。当該区間は比較的交通量も多く、接続する県道側では、別府地区、浦郷地区それぞれで家屋移転を伴った道路改良が行われて来たが、臨港道路側に要改善箇所があることで、その効果は十分に発揮されない状況となっている。多くの車両が通行する幹線道路として、早期の改善が望まれるため、港の管理者である島根県に対し、町の取り組み状況と見通しについて町長に伺う。

**回答** 町長

はじめに、別府港臨港道路の改善に係る取り組みについては、昨年度、別府地区において、地域住民が主体となった「別府港みらい構想検討委員会」を立ち上げ、その中で別府港周辺整備の将来構想について検討され、3月に整備の方向性をまとめた報告書が町に提出されたところである。報告書の内容としては、1つ目は、道路線形の悪い箇所があることから、隠岐汽船フェリーターミナル入口交差点から、黒木御所付近までをメインルートとして、道路整備を行うもの。2つ目として、別府交通センターやフェリーどうぜん岸壁周辺は見通しも悪く、危険箇所がある事から、道路の安全対策や商店へのアクセス改善を目的とした駐車場再編を含めた整備を行うもの。3つ目は、将来的に港周辺の賑わいが持てるよう、集客性や回遊性を高めるため、緑地広場、公園の整備を行うものなどである。

これを受け町としては、港湾関係事業では、最優先である別府港新岸壁整備が、現在、進行中であるため、今後の県への要望は、地元からの報告書を基に、実現可能と思われる事業から順次要望していきたいと考えている。まずは、議員ご指摘の未改良区間である「島前集合庁舎付近から黒木御所付近までの区間」の道路改良と「緑地広場の整備」について、地

元からの強い要望であることを念頭に、実現に向けて県要望を行っていく。

次に、浦郷漁港臨港道路の改善に係る取り組みについては、今回指摘されている商工会付近から小若鳥居付近までの区間は、平成22年度から24年度にかけて島根県による整備が行なわれた箇所である。

議員のご指摘のとおり、一部の区間については見通しが悪く、改善が必要と思われることから、令和元年度に「いさりび荘」から「小若鳥居」までの区間の道路改良について島根県と協議をしているが、一旦、道路整備が平成24年度に改良済みとなっており、現在のところ、道路改良だけでは事業化は難しいことが島根県から指摘されている。埋立てや臨港道路改良については、必要性や有効性など論理的な理由が必要との島根県からの指摘を受け、昨年度から島根県と浦郷漁港周辺の将来的な整備の方向性について、検討を行っているところである。

将来的な整備の方向性については、今後、想定される個別事項によっては、様々な課題が想定されることから、直ぐに要望とはならないが、臨港道路の道路改良には、埋立てが必要だと考えておりますので、まずは、島根県と埋立地の利用計画等の協議を進めながら、将来構想の策定に向けて取り組んでいく。



輝員 田柴 議

**質問** 積極的な情報発信の推進について

人口減少を抑えるために、第2期創生総合戦略が策定された。基本構想を実現するための施策として、積極的な情報発信の推進がある。その手段としてフェイスブック、インスタグラム、ユーチューブ、西ノ島チャンネル、町報などがあり、インスタグラム、ユーチューブ、西ノ島チャンネル、町報などが更新されているが、観光定住課が担当しているフェイスブック「西ノ島いいね」は、4月1日から6月3日までの間、2回しか更新されていない。その2回は、わがとこ応援商品券、食事券のお知らせと隠岐限定クーポンのお知らせであり、担当課が目標達成する意志が伝わらない。積極的に外部へ発信し、西ノ島町に対する外部からの関心を惹きつけるために、この状態を改善する必要があると考える。人員を増やすか業務委託等も考えられるが、そのような考えがないか町長に伺う。

**回答** 町長

町では町内外からの関心を惹きつける